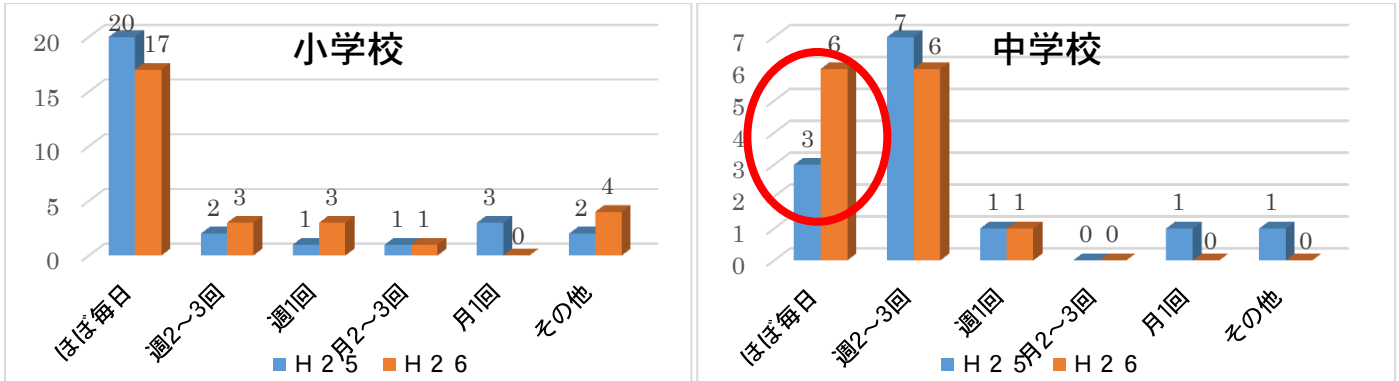


平成26年度の佐伯市の取組状況のまとめ

小学校・・・実施頻度は若干減少したものの、取組の大きな変化は見られず一校一実践が日常化している。
 中学校・・・実施頻度、時間、教職員等の関わり、取組の見直し等が改善され、学校全体の取組となっている。

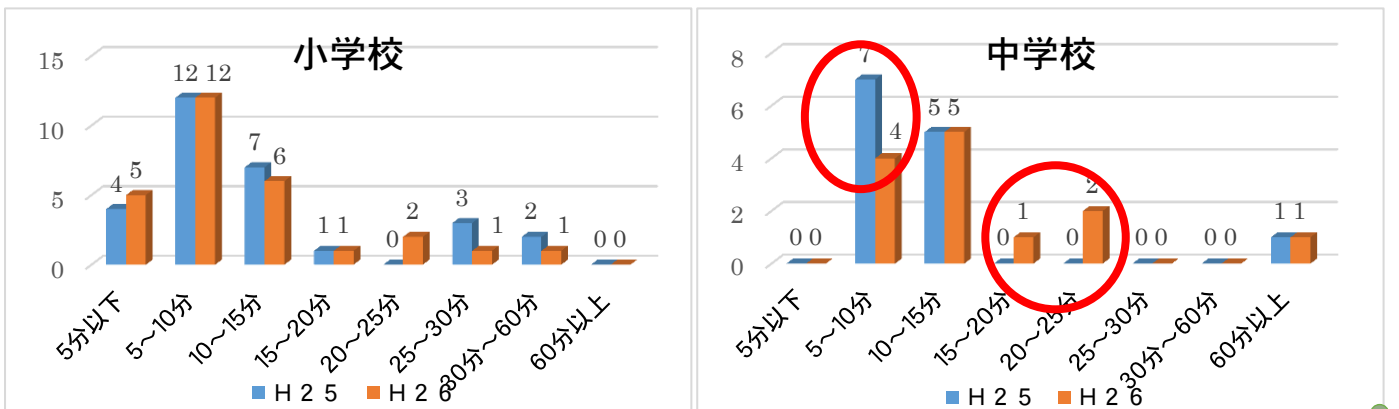
1 実施頻度



※その他は「行事の前後に集中して実施」「学期に1~2回実施」等の回答

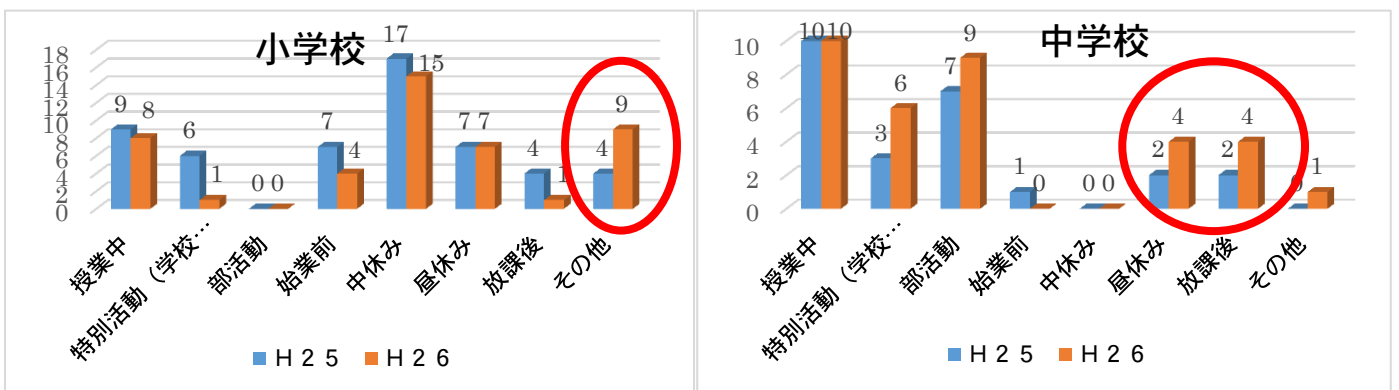
小学校では「ほぼ毎日」がやや減少しているが、中学校では「ほぼ毎日」が倍増しており、実施頻度が改善している。

2 1回当たりの実施時間



小学校ではあまり変化が見られないが、中学校では「5~10分」が減少し、「15~25分」の学校が増加しており、全体として実施時間が長くなっている。

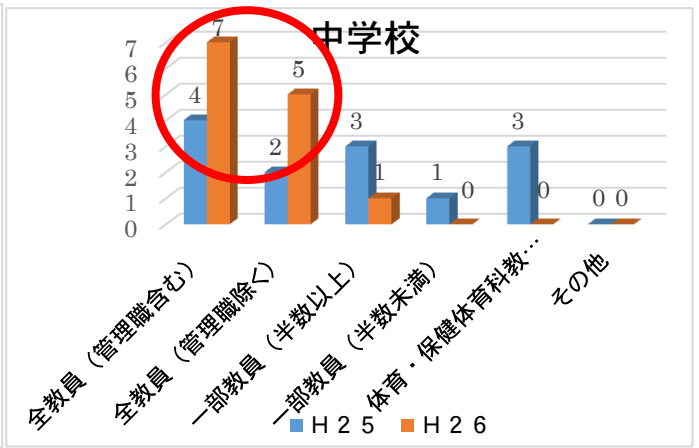
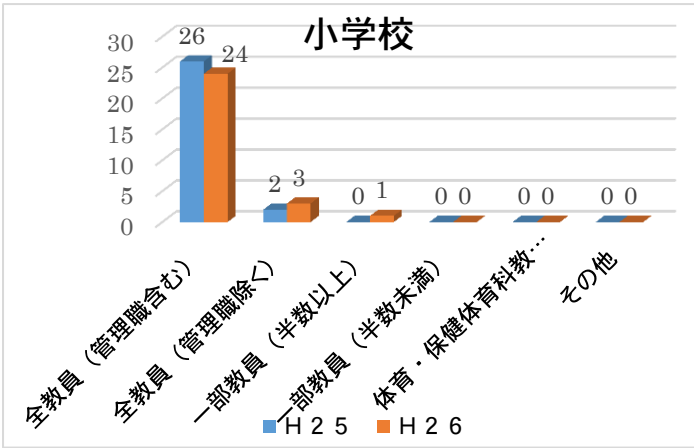
3 実施時間の設定（複数回答可）



※その他は「帯の時間」「中休み終了後」「業間」「中休みとは別に中休みの間に設定」「集会時間」等の回答。

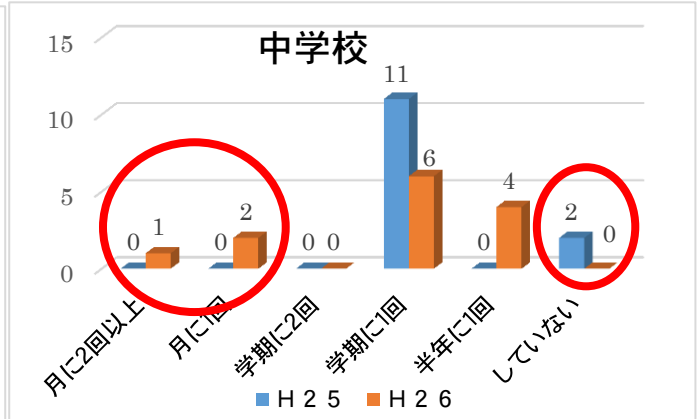
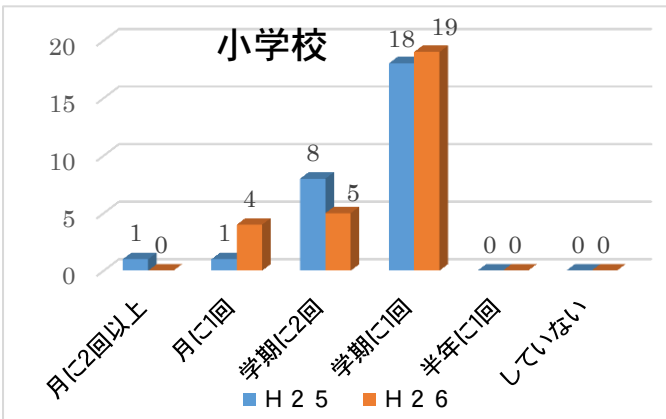
小学校では「始業前」「中休み」が減少し、「帯の時間」「中休み後」等、一校一実践の時間を校時表に位置付ける学校が増えた。中学校は、「授業」「部活動」が多いのは変わらないが、「昼休み」「放課後」も増加。

4 教職員の関わり



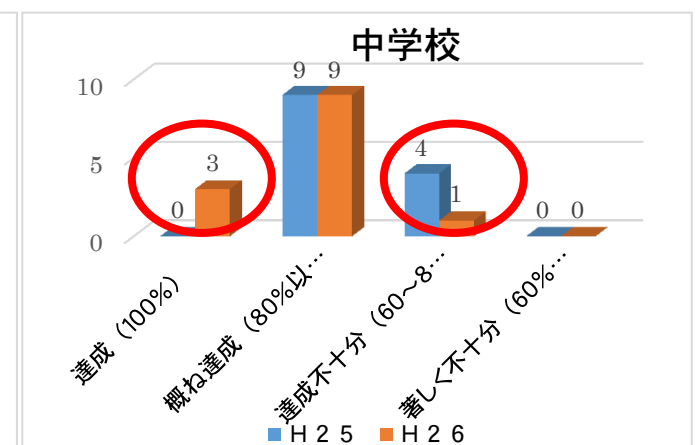
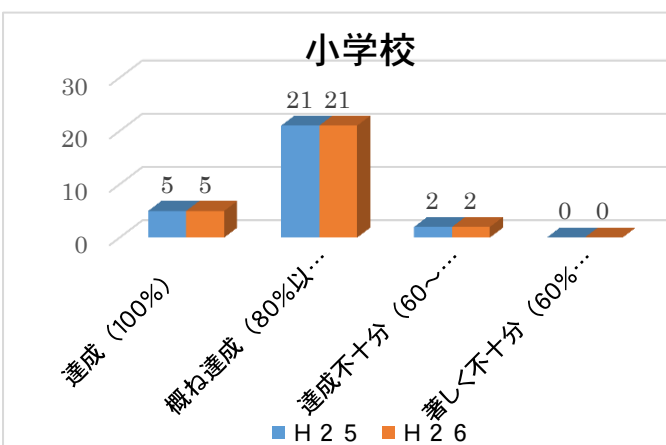
小学校では、「全教員（管理職含む）」が若干減少しているが、中学校では「全教員（管理職含む）」や「全教員（管理職除く）」が増加しており、中学校で多くの教員が体力向上に関わっていることがうかがえる。

5 取組内容の見直し



小学校では全体的に大きな変化がないが、中学校では「学期に1回」が減少して「月に1回」「月に2回」という学校も現れた。見直さない学校が0になった。

6 指標の達成状況



小学校では全く変化がないが、中学校は「達成不十分」が減少し、「達成」が増加しており、取組の改善により達成状況の改善が進んでいる。

7 取組の成果と課題の特徴的な回答

<小学校>

☆成果

- 休み時間に、朝の時間に取り組んだサーキットや長縄の練習に取り組む姿が見られた。
- 以前に比べて外で遊ぶ子どもが増え、高学年の子が下級生になわとびの技を見せたり、教えたりする姿が見られ、高学年としての満足感を得られたり、下級生が高学年へのあこがれの気持ちをもつきっかけになった。
- 日常的に運動をする機会が少ない子にとっては、有意義な時間となっている。
- 遊具や設備を活用し各種の運動にバランス良く取り組むことができた。
- サーキットトレーニングを組み、体育授業時に毎時間取り組ませることで、それまでほとんど遊ぶことのなかった遊具で休み時間に遊ぶようになった。

★課題

- 中休みに行っていた子どもたちとの関わりや委員会活動の時間の確保が困難になった。
- 体力テストにこだわるわけではないが、測定できる用具が常に廊下等に配置されていて、自由に計測できれば、意識も変わってくるのではないかと思われる。来年度に向けてその工夫も考えている。
- 季節によっては他の取組が入り、できないときもあった。同じ種目を1年間取り組む場合、児童に意欲をもたせ続けることの難しさがある。
- 課題としては、児童の意欲を継続させるために、今年度は優秀なクラスを表彰したり、取組をグラフによって可視化したりしたが、来年度も更なる工夫が必要であると考えられる。

<中学校>

☆成果

- 体力向上をめざして行う一校一実践の取り組みにおいて、より一層、運動に親しむために、昼休みのスポーツ活動（月1回のスポーツ大会 有志、学年、男女の枠を超えた取り組み）を城リンピックと位置付けて実施することができた。初めての取組であったが、ギャラリーも多く集まり大盛況であった。今後ぜひ継続していきたい。
- 昨年度は年間を通して、全校生徒が同一の内容で活動に取り組んだが、今年度は、生徒個々が各自の体力特性を分析し、生徒の希望により伸ばしたい体力要素に応じたトレーニングを実施した。

★課題

- 放課後の時間なので、運動会や文化祭等の行事の前は係活動などの準備のため中止になることがあった。
- 今後も、楽しみながら体力向上を目指す取組が必要である。特に、運動部に所属していない生徒や運動を苦手とする生徒に対して、いかに運動する時間と場を保障していくかを考えていかなければならない。また、家庭や地域との協働についても課題となってくる。
- 家庭との連携や生活習慣・食習慣の指導が手つかずであった。

8 所感

- 昨年度は中学校の取組が一部の体育科教員に任せていたり、部活動と兼ねていたり課題が見られたが、今年度は実施頻度や時間が伸び、全教員で取り組む学校が増えた。また、全ての学校において取組の改善が行われた。
- 小学校においては、休み時間に実施する学校が減り、校時表に一校一実践の時間を位置付ける学校が増え、日常的な取組になっている。また、子どもたちの意欲を継続させるため、時期によって種目を変えたり、選択できるようにしたりする等の工夫を行った学校も増えている。
- 課題としては、「実施時間の確保と増加」「さらなる児童生徒の意欲の継続」「家庭・地域との連携による生活習慣の改善」であり、今後も優れた取組を管内に広げていく必要がある。